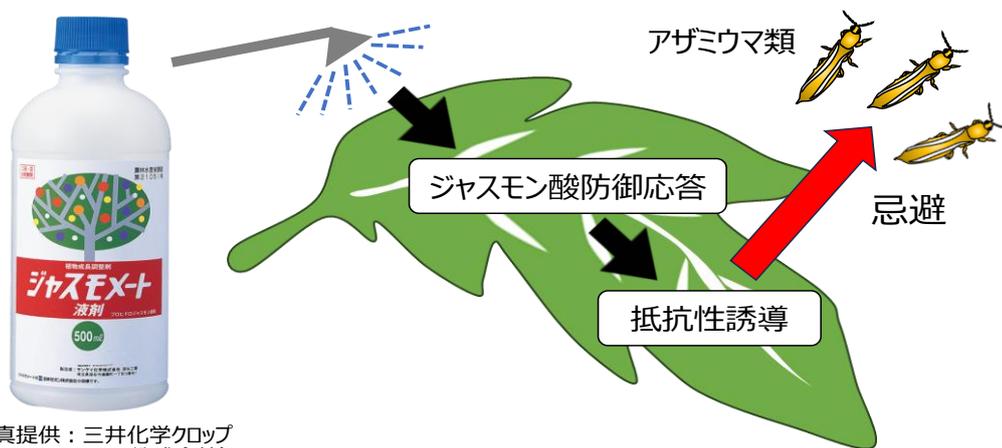


新規害虫忌避剤プロヒドロジャスモン

プロヒドロジャスモン（以下、PDJ）は、植物ホルモンの一種ジャスモン酸の類縁体であり、植物の環境ストレスに対する抵抗性を誘導することによって、野菜や花き類から害虫を忌避させます（図）。令和3年3月に農薬登録（適用拡大）を取得し、「ジャスモメート[®]液剤」として市販されています。なお、本稿の研究成果の一部は、生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」（JPJ007097）の支援を受けて得られたものです。

☆ 技術の概要

1. トマト・ミニトマトのアザミウマ類が適用対象となります。まだ農薬登録申請中ですが、ピーマンやナス、イチゴ、キクのアザミウマ類に対しても実用レベルで忌避作用があることが確認されています。また、アザミウマ類が媒介する植物ウイルス感染や線虫類密度の抑制へも効果があることが明らかになっています。
2. 殺虫ではなく忌避によって害虫を低密度に維持することから、害虫の薬剤抵抗性が発達する可能性がきわめて低く、農業生産現場で継続して使用することができます。
3. 土壌分解性が高く、有用昆虫に悪影響を及ぼさないなど、環境に負荷をかけません。
4. 許容一日摂取量（ADI）が高いため、人への安全性が高い薬剤になります。そのため、ADIに基づく化学農薬使用量（「みどりの食糧システム戦略」におけるリスク換算値：PDJのリスク換算係数は最低ランク）の削減に貢献します。
5. 以上のことから、本技術を病虫害防除体系に組み込むことにより、環境や人にやさしく持続可能な農業生産が可能になることが期待されます。



（写真提供：三井化学クロップ
&ライフソリューション株式会社）

図 プロヒドロジャスモンの害虫忌避機構

☆ 活用面での留意点

1. 農薬登録に関する情報は、三井化学クロップ&ライフソリューション（株）の農薬製品サイト（<https://www.mc-croplifesolutions.com/products/21051>）をご参照ください。
2. 本技術の詳細については、農研機構の「お問い合わせフォーム」をご利用ください。

（農研機構・中日本農業研究センター 櫻井民人）